

令和 7 年度

事業所名 : グループホームぬくもり (さくらユニット)

1 自己評価及び外部評価結果

【事業所概要(事業所記入)】

事業所番号	0393100128		
法人名	社会福祉法人健慈会		
事業所名	グループホームぬくもり (さくらユニット)		
所在地	〒028-8202 岩手県九戸郡野田村大字玉川5-45-22		
自己評価作成日	令和7年10月20日	評価結果市町村受理日	令和8年1月21日

【事業所が特に力を入れている点・アピールしたい点(事業所記入)】

利用者様の意見を尊重しながら生き生きと過ごせるよう支援を心がけています。また、利用者様の持つ能力に応じて役割を持って頂き自立した生活ができるよう支援しています。職員全員で毎月、認知症チームケアに取り組んだり、認知症についての勉強会を行い、知識を深め、利用者様一人ひとりに合ったケアを行えるよう努めているユニットです。

※事業所の基本情報は、公表センターページで閲覧してください。(↓このURLをクリック)

基本情報リンク先 https://www.kaigokensaku.mhlw.go.jp/03/index.php?action_kouhvu

【外部評価で確認した事業所の優れている点、工夫点(評価機関記入)】

事業所は野田玉川駅の正面にあって小規模特養施設と併設され、グループホームの2ユニット、特養の3ユニットが放射状に配置されて一体的な運営がなされている。事業所では毎年度、事業目標を作成し、2カ月に1回開催するユニット会議で2カ月間の業務目標と業務の振り返りを行い、計画的なサービスの実施に努めている。入居時には家族から「暮らしの情報」として様々な情報を提供してもらうほか、年2回「ニーズ聞き取りチェックシート」によって利用者の思いや希望を確認するなど、利用者本位のサービス提供に工夫をこらしている。また、家族にはLINE登録してもらって必要な情報提供を素早く行うことを実践している。地域との交流にも力を入れており、地元の婦人会や保育所との交流のほか、広報誌を年4回、玉川地区の全世帯に配布して理解の促進を図っている。地域からは高齢者福祉の拠点として期待を寄せられており、その期待に応えて真摯で明るい事業所運営がなされている。

【評価機関概要(評価機関記入)】

評価機関名	特定非営利活動法人 いわたの保健福祉支援研究会
所在地	〒020-0871 岩手県盛岡市中ノ橋通2丁目4番16号
訪問調査日	令和7年11月17日

V. サービスの成果に関する項目(アウトカム項目) ※項目No.1~55で日頃の取り組みを自己点検したうえで、成果について自己評価します

項目		取り組みの成果 ↓該当するものに○印		項目		取り組みの成果 ↓該当する項目に○印	
56	職員は、利用者の思いや願い、暮らし方の意向を掴んでいる(参考項目:23,24,25)	<input type="radio"/>	1. ほぼ全ての利用者の 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんど掴んでいない	63	職員は、家族が困っていること、不安なこと、求めていることをよく聴いており、信頼関係ができている(参考項目:9,10,19)	<input type="radio"/>	1. ほぼ全ての家族と 2. 家族の2/3くらいと 3. 家族の1/3くらいと 4. ほとんどできていない
57	利用者と職員が、一緒にゆったりと過ごす場面がある(参考項目:18,38)	<input type="radio"/>	1. 毎日ある 2. 数日に1回程度ある 3. たまにある 4. ほとんどない	64	通いの場やグループホームに馴染みの人や地域の人々が訪ねて来ている(参考項目:2,20)	<input type="radio"/>	1. ほぼ毎日のように 2. 数日に1回程度 3. たまに 4. ほとんどない
58	利用者は、一人ひとりのペースで暮らしている(参考項目:38)	<input type="radio"/>	1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない	65	運営推進会議を通して、地域住民や地元の関係者とのつながりが拡がったり深まり、事業所の理解者や応援者が増えている(参考項目:4)	<input type="radio"/>	1. 大いに増えている 2. 少しずつ増えている 3. あまり増えていない 4. 全くない
59	利用者は、職員が支援することで生き生きとした表情や姿がみられている(参考項目:36,37)	<input type="radio"/>	1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない	66	職員は、生き活きと働いている(参考項目:11,12)	<input type="radio"/>	1. ほぼ全ての職員が 2. 職員の2/3くらいが 3. 職員の1/3くらいが 4. ほとんどいない
60	利用者は、戸外の行きたいところへ出かけている(参考項目:49)	<input type="radio"/>	1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない	67	職員から見て、利用者はサービスにおおむね満足していると思う	<input type="radio"/>	1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない
61	利用者は、健康管理や医療面、安全面で不安なく過ごしている(参考項目:30,31)	<input type="radio"/>	1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない	68	職員から見て、利用者の家族等はサービスにおおむね満足していると思う	<input type="radio"/>	1. ほぼ全ての家族等が 2. 家族等の2/3くらいが 3. 家族等の1/3くらいが 4. ほとんどできていない
62	利用者は、その時々状況や要望に応じた柔軟な支援により、安心して暮らしている(参考項目:28)	<input type="radio"/>	1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない				

[評価機関:特定非営利活動法人 いわたの保健福祉支援研究会]

令和 7 年度

2 自己評価および外部評価結果

事業所名 : グループホームぬくもり (さくらユニット)

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
I.理念に基づく運営					
1	(1)	○理念の共有と実践 地域密着型サービスの意義をふまえた事業所理念をつくり、管理者と職員は、その理念を共有して実践につなげている。	基本理念をユニット内に掲示し、ユニット会議の時に唱和できている。理念に沿ったサービスが提供できるよう努めている。	開設当初に定めた理念を事業所内に掲示するとともに、2か月毎に開催するユニット会議で職員全員が唱和している。見直しも検討したが、職員間に浸透していることから継続としている。また、ユニット会議では理念に基づく2か月間の具体的な業務目標を定め、次の会議で実施状況进行评估し、日々のケアに理念が活かされるよう努めている。	
2	(2)	○事業所と地域とのつきあい 利用者が地域とつながりながら暮らし続けられるよう、事業所自体が地域の一員として日常的に交流している。	敬老会などの行事の際、地域の婦人部や保育園など、余興で参加していただき交流している。	事業所前の野田玉川駅のプランターの花植えを継続して行っているほか、事業所広報誌を玉川地区の全戸に配布して情報発信に努めている。敬老会には地域の婦人会が来訪して歌と踊りを披露し、保育園児らも来所して利用者と交流し喜ばれている。今年は地元の中学生在が職場体験で来所する予定もあり、地域との連携が進められている。	
3		○事業所の力を活かした地域貢献 事業所は、実践を通じて積み上げている認知症の人の理解や支援の方法を、地域の人々に向けて活かしている。	認知症カフェを以前は開催していたがコロナの影響で中止し、そのままとなり現在も実施できていない状況である。		
4	(3)	○運営推進会議を活かした取り組み 運営推進会議では、利用者やサービスの実際、評価への取り組み状況等について報告や話し合いを行い、そこでの意見をサービス向上に活かしている。	運営推進会議には利用者様のご家族様、地域の方等に参加していただき、報告、話し合い等を行えている。	運営推進会議は併設の特養施設と合同で開催しており、委員として民生委員、地域住民代表、地域包括センター職員、村保健福祉課職員、利用者家族代表が参加している。昨年は防災計画の見直しがあり、その企画から参加していた消防分団長も会議のゲストとして参加している。会議では防災やコロナ対策など様々な意見が出されているものの、地域関係者の参加がない場合も見受けられる。	同会議は外部からの意見や質問を伺う貴重な機会であるため、開催に際しては地域関係者の出席が確実に得られるような配慮が必要と思われます。これにより、さらに活発な会議となるよう期待します。

令和 7 年度

2 自己評価および外部評価結果

事業所名 : グループホームぬくもり (さくらユニット)

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
5	(4)	○市町村との連携 市町村担当者と日頃から連絡を密に取り、事業所の実情やケアサービスの取り組みを積極的に伝えながら、協力関係を築くよう取り組んでいる。	主に管理者が地域ケア会議に出席し情報交換や個別事例の検討をしている。	運営推進会議には村保健福祉課の職員が毎回参加しており、事業所の状況を良く把握されている。村の保健センターに村保健福祉課や地域包括支援センターがあり、事業所から訪れる機会も多く連携が図られている。村主催の地域ケア会議には管理者が毎回参加し、情報交換のほか、参加事業所と一緒に事例検討も行っている。	
6	(5)	○身体拘束をしないケアの実践 代表者及び全ての職員が「指定地域密着型サービス指定基準及び指定地域密着型介護予防サービス指定基準における禁止の対象となる具体的な行為」を正しく理解しており、玄関の施錠を含めて身体拘束をしないケアに取り組んでいる。	身体拘束廃止委員会が中心となり施設全体で実施している。毎月会議で身体拘束廃止に向けての事例の検討、話し合いを行い、意識向上に努めている。	特養と合同で管理者やケアマネ等で構成する権利擁護委員会を3か月に1回開催している。スピーチロックの対策として、11月を言葉使い見直し月間としてポスターを掲示するほか、年2回は全職員がセルフチェック表による自己評価に取り組んでいる。また、不適切な言葉遣いなどが見られた場合には、その場で管理者から指導するようにしている。	
7		○虐待の防止の徹底 管理者や職員は、高齢者虐待防止関連法について学ぶ機会を持ち、利用者の自宅や事業所内での虐待が見過ごされることがないように注意を払い、防止に努めている。	虐待防止委員会を設置し、施設研修を行っている。また、ユニット会議の中でも毎日勉強会を行い、日々の対応について振り返りをしながら、虐待につながらないような業務を行うよう努めている。		
8		○権利擁護に関する制度の理解と活用 管理者や職員は、日常生活自立支援事業や成年後見制度について学ぶ機会を持ち、個々の必要性を関係者と話し合い、それらを活用できるよう支援している。	権利擁護委員会を設置し、施設内研修で学ぶ場を設けている。成年後見制度など、利用者様が必要とする助言や支援が受けられるよう、相談に応じ、関係機関への橋渡しなども行っている。		

令和 7 年度

2 自己評価および外部評価結果

事業所名 : グループホームぬくもり (さくらユニット)

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
9		○契約に関する説明と納得 契約の締結、解約又は改定等の際は、利用者や家族等の不安や疑問点を尋ね、十分な説明を行い理解・納得を図っている。	契約時は管理者が主に対応し、契約書や重要事項説明書の内容を、利用者様やご家族様が十分に理解できるよう丁寧に説明している。また、契約後も問い合わせ等に直接管理者とやり取りしやすいようSNSも活用している。		
10	(6)	○運営に関する利用者、家族等意見の反映 利用者や家族等が意見、要望を管理者や職員ならびに外部者へ表せる機会を設け、それらを運営に反映させている。	運営推進会議などを通じて、利用者様やご家族様が意見を伝えやすい雰囲気作りに努めている。いただいたご意見には真摯に耳を傾け、サービスの改善に繋げている。	家族が面会や通院の付き添いで来訪の際には、要望等がないか声掛けして伺っている。現在は家族の8割以上が事業所のLINEに登録しており、通院結果やケガをした際の状態などを素早く伝えるようにしている。LINE登録によるコミュニケーション方法の改善もあり、家族からはあまり運営に係る意見や要望などは寄せられていない。	
11	(7)	○運営に関する職員意見の反映 代表者や管理者は、運営に関する職員の意見や提案を聞く機会を設け、反映させている。	日々のユニット会議を通して、職員が意見や提案を自由に話せる機会を設けている。現場の気づきをサービスの質の向上に反映させるよう努めている。	2か月に1回のユニット会議では、なるべく事前に各職員から意見などを出してもらったうえで話し合っている。ケアの事柄を主にしながら、食事の内容や土日の業務内容、エアコンの故障など、多くの意見が出され改善に繋げている。管理者との個別面談は年1回と必要な際に行っているが、管理者と職員が個別にLINEでつながっており、意見・提案を出しやすい環境が整っている。	
12		○就業環境の整備 代表者は、管理者や職員個々の努力や実績、勤務状況を把握し、給与水準、労働時間、やりがいなど、各自が向上心を持って働けるよう職場環境・条件の整備に努めている。	定期的に管理者との面談を行い、就労時間や困りごとなどを話し合っている。職員一人ひとりが働きがいを感じられるよう、職場環境の整備に努めている。		

事業所名 : グループホームぬくもり (さくらユニット)

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
13		○職員を育てる取り組み 代表者は、管理者や職員一人ひとりのケアの実際と力量を把握し、法人内外の研修を受ける機会の確保や、働きながらトレーニングしていくことを進めている。	職員の経験年数や日頃の様子を考慮し、個々の能力に応じた研修への参加を促している。また、それぞれの職員が役割を持って活躍できるよう、人材育成に努めている。		
14		○同業者との交流を通じた向上 代表者は、管理者や職員が同業者と交流する機会を作り、ネットワークづくりや勉強会、相互訪問等の活動を通じて、サービスの質を向上させていく取り組みをしている。	管理者が地域ケア会議に出席するなど、地域の様々な機関や人と積極的に連携し、地域の一員としての役割を担えるよう交流を図っている。		
Ⅱ.安心と信頼に向けた関係づくりと支援					
15		○初期に築く本人との信頼関係 サービスを導入する段階で、本人が困っていること、不安なこと、要望等に耳を傾けながら、本人の安心を確保するための関係づくりに努めている。	入居前後の生活歴や利用者様の思いに関する情報を丁寧に聞き取り、職員間で共有している。その情報を基に、他の利用者様や職員と良い人間関係が築けるよう配慮している。		
16		○初期に築く家族等との信頼関係 サービスを導入する段階で、家族等が困っていること、不安なこと、要望等に耳を傾けながら、関係づくりに努めている。	入居前後の聞き取り情報を元に話しやすい環境を作り、職員間で情報を共有して要望に近づけるよう努めている。		
17		○初期対応の見極めと支援 サービスを導入する段階で、本人と家族等が「その時」まず必要としている支援を見極め、他のサービス利用も含めた対応に努めている。	管理者とケアマネを中心にアドバイスできるようにしている。また、必要に応じて、他のサービスとの連携を行っている。		

令和 7 年度

2 自己評価および外部評価結果

事業所名 : グループホームぬくもり (さくらユニット)

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
18		○本人と共に過ごし支えあう関係 職員は、本人を介護される一方の立場におかず、暮らしを共にする者同士の関係を築いている。	食事の準備や後片付け、洗濯物たたみなど、利用者様の能力に合わせて軽作業を手伝っていただき、主体的に活動できる役割が持てるよう支援している。		
19		○本人を共に支えあう家族との関係 職員は、家族を支援される一方の立場におかず、本人と家族の絆を大切にしながら、共に本人を支えていく関係を築いている。	受診時等にご家族様に会えるような時などは近況を報告し、以前の家庭での生活を聞き取り、支援に繋げるように心がけている。		
20	(8)	○馴染みの人や場との関係継続の支援 本人がこれまで大切にしてきた馴染みの人や場所との関係が途切れないよう、支援に努めている。	コロナ禍も落ち着き居室での面会を再開したり、外出の機会も増やし地域の行事等にも参加できている。	居室での面会ができるようになり、家族のほか、親戚や近所の友人、遠方の子や孫など馴染みの人の面会が増えてきている。家族の付き添いで、昔からの馴染みの美容院に行く方もいる。多くの利用者は毎月の訪問理容を利用しており、新たな馴染みになっている。「野田まつり」にも出かけて、伝統ある山車を見物して楽しんでいる。	
21		○利用者同士の関係の支援 利用者同士の関係を把握し、一人ひとりが孤立せずに利用者同士が関わり合い、支え合えるような支援に努めている。	時には職員が会話の輪に入り、利用者様同士が互いに尊重し合える関係を築けるよう支援している。皆様が関わり合える温かい環境づくりに努めている。		
22		○関係を断ち切らない取組み サービス利用(契約)が終了しても、これまでの関係性を大切にしながら、必要に応じて本人・家族の経過をフォローし、相談や支援に努めている。	他の介護サービスを利用される際には、担当者と密に情報交換を行い、利用者様が連続性のあるサービスを受けられるよう連携に努めている。		

事業所名 : グループホームぬくもり (さくらユニット)

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
Ⅲ. その人らしい暮らしを続けるためのケアマネジメント					
23	(9)	○思いや意向の把握 一人ひとりの思いや暮らし方の希望、意向の把握に努めている。困難な場合は、本人本位に検討している。	日々の活動中での会話などから、思いや意向を汲みとるよう努めている。	利用者の8割くらいの方が、思いや意向を言葉で意思表示できており、職員が年2回、「ニーズの聞き取りフォーマット」に思いや意向を記入し職員間で共有している。内容ではウニやホタテなどを食べたいとする事が多いが、女性では息子やペットの事を気にしている方もいる。また、家族の付添いで墓参りや外泊をしてくる方もいる。	
24		○これまでの暮らしの把握 一人ひとりの生活歴や馴染みの暮らし方、生活環境、これまでのサービス利用の経過等の把握に努めている。	情報提供書、ニーズ聞き取りチェックリスト等で暮らし方、生活習慣を把握し、できること、できないことも見極めて支援に努めている。		
25		○暮らしの現状の把握 一人ひとりの一日の過ごし方、心身状態、有する力等の現状の把握に努めている。	日々の状態を記録し、変化等を記録に残し情報を共有することで変化に対応できるよう、努めている。その場の状況にあわせて、好む歌を流してみたり、軽体操を行ったりしている。		
26	(10)	○チームでつくる介護計画とモニタリング 本人がより良く暮らすための課題とケアのあり方について、本人、家族、必要な関係者と話し合い、それぞれの意見やアイデアを反映し、現状に即した介護計画を作成している。	定期的にカンファレンスを行い、利用者様のその時々々の心身の状態に応じたサービスが提供できているか検討し、必要に応じてケアプランの見直しを行っている。	入居時の計画は10日から2週間で見直しを行い確定させている。その後は概ね6か月毎に居室担当者がモニタリングを行い、ケアマネが確認したうえで見直しを行い、ユニット会議で話し合って確定している。計画書には家族からの要望等を記入するスペースがあり、なるべく記入していただいて実際のケアに活かされるよう努めている。	
27		○個別の記録と実践への反映 日々の様子やケアの実践・結果、気づきや工夫を個別記録に記入し、職員間で情報を共有しながら実践や介護計画の見直しに活かしている。	日々の気づきや取り組んだこと等を記録し情報を共有して、変化があった場合にはすぐ対応できるようにしている。		

事業所名 : グループホームぬくもり (さくらユニット)

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
28		○一人ひとりを支えるための事業所の多機能化 本人や家族の状況、その時々生まれるニーズに対応して、既存のサービスに捉われない、柔軟な支援やサービスの多機能化に取り組んでいる。	利用者様やご家族様からの「こうしたい」というご要望には、安全面に配慮した上で、できる限り柔軟にお応えできるよう努めている。		
29		○地域資源との協働 一人ひとりの暮らしを支えている地域資源を把握し、本人が心身の力を発揮しながら安全で豊かな暮らしを楽しむことができるよう支援している。	なじみの場所である地域の商店での買い物や、お祭り見学など、地域との関わりを大切にし、楽しんでもらえるような外出の機会を設けている。		
30	(11)	○かかりつけ医の受診支援 受診は、本人及び家族等の希望を大切に、納得が得られたかかりつけ医と事業所の関係を築きながら、適切な医療を受けられるように支援している。	必要に応じて、ご家族様にも協力してもらいながら定期的受診や、随時の受診など、適切な医療を受けられるよう支援している。	入居前からのかかりつけ医を継続しており、大半の方が久慈市内の精神科医院やクリニックを利用しており、1ヵ月～3ヵ月に1回の割合で、主に家族が付き添って通院している。今年からは、週1回の訪問看護を活用しており、夜間対応も可能であるため、安心感がある。また、隣接の特養施設の看護師も対応可能となっている。	
31		○看護職との協働 介護職は、日常の関わりの中でとらえた情報や気づきを、職場内の看護職や訪問看護師等に伝えて相談し、個々の利用者が適切な受診や看護を受けられるように支援している。	週1回の訪問看護にて、情報共有、相談し適切なケアができています。軽微な変化でも、その都度電話やSNSを利用し、すぐに対応することができています。		
32		○入退院時の医療機関との協働 利用者が入院した際、安心して治療できるように、又、できるだけ早期に退院できるように、病院関係者との情報交換や相談に努めている。あるいは、そうした場合に備えて病院関係者との関係づくりを行っている。	入院時には情報提供を持参し、病院に提出している。入院中の様子も、ご家族様等から聞き取りを行い、把握するよう努めている。		

事業所名 : グループホームぬくもり (さくらユニット)

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
33	(12)	○重度化や終末期に向けた方針の共有と支援 重度化した場合や終末期のあり方について、早い段階から本人・家族等と話し合いを行い、事業所でできることを十分に説明しながら方針を共有し、地域の関係者と共にチームで支援に取り組んでいる。	利用者様に変化があった際は、早期にご家族様に伝え、適切な協力が得られるよう努めている。職員間、訪問看護師とも情報共有を行い、利用者様の状態に合わせたケアができるようにしている。	入居時に重度化した場合の対応について、予め本人や家族に説明し理解を得ている。事業所では協力医師の確保も難しいため看取りは行っておらず、要介護3以上となった場合には、同法人系列の特養施設等への住み替えを支援している。また、入院のほかにも、同系列の小規模看護多機能ホームを利用して自宅での看取りを希望する方もいる。	
34		○急変や事故発生時の備え 利用者の急変や事故発生時に備えて、全ての職員は応急手当や初期対応の訓練を定期的に行い、実践力を身に付けている。	急変、事故発生時の対応マニュアルを活用している。定期的に訓練を行い、職員それぞれが手順を把握し、いざという時の情報共有、連携に努めている。		
35	(13)	○災害対策 火災や地震、水害等の災害時に、昼夜を問わず利用者が避難できる方法を全職員が身につけるとともに、地域との協力体制を築いている。	定期的に避難訓練を行い、地域の方々にも協力していただいて、災害発生時の対応について確認するとともに連携強化に努めている。	事業所はハザードマップでは浸水や土砂崩れの区域とはなっておらず、年1回の災害対策訓練と年2回の火災想定避難訓練を併設の特養施設と一緒に実施している。夜間想定訓練では、5人ほどの車いす利用者があるが、特養職員を含めて5人の職員で何とか避難させることができた。また、近所には協力できる消防団員もおり心強い存在となっている。備蓄品は3日分程度を備えている。	
IV. その人らしい暮らしを続けるための日々の支援					
36	(14)	○一人ひとりの尊重とプライバシーの確保 一人ひとりの人格を尊重し、誇りやプライバシーを損ねない言葉かけや対応をしている。	大声でプライバシーに関わる声がけをしないよう日々のケアにおいて配慮している。プライバシーが守られる環境を整え、利用者様が安心して過ごせるよう支援している。	職員は日頃から利用者の個性を尊重し、「さん」付けで丁寧な声掛けを心掛けている。トイレ誘導の際には、周りの方に聞こえないよう小声で話すなどの配慮を行っている。排泄で失敗した場合には、周りに気付かれないようそっとトイレに誘導し、申し訳ないと言う方には、「大丈夫ですよ」と話し、優しく接している。	

令和 7 年度

2 自己評価および外部評価結果

事業所名 : グループホームぬくもり (さくらユニット)

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
37		○利用者の希望の表出や自己決定の支援 日常生活の中で本人が思いや希望を表したり、自己決定できるように働きかけている。	利用者様に選択肢のある声がけをし、なるべく利用者様ご自身で意思決定できるよう支援している。希望に沿えない場合も否定するのではなく、なぜ希望に沿えないか説明して理解していただけるようにしている。		
38		○日々のその人らしい暮らし 職員側の決まりや都合を優先するのではなく、一人ひとりのペースを大切に、その日をどのように過ごしたいか、希望にそって支援している。	利用者様の長年の生活リズムを尊重し、無理強いすることなく、体調などを考慮しながら一人ひとりのペースに合わせたケアを心がけている。		
39		○身だしなみやおしゃれの支援 その人らしい身だしなみやおしゃれができるように支援している。	利用者様がその人らしく生活できるよう配慮している。月1回訪問理容も来ており、散髪・顔そりを行っていただき身だしなみにも気を付けている。入居前に利用していた美容院に通う利用者様もいる。		
40	(15)	○食事を楽しむことのできる支援 食事が楽しみなものになるよう、一人ひとりの好みや力を活かしながら、利用者と職員と一緒に準備や食事、片付けをしている。	季節に合わせた行事食の提供や、誕生日にはおやつにケーキを提供し、お祝いしている。きざみ食等、利用者様の状態に合わせて提供している。食後は、茶碗拭き等お手伝いしていただいている。	献立は1ヵ月分を事業所で作成し、主菜は職員と利用者が食べて美味しかった冷凍食品が毎日配達されている。ニーズチェックで調べた利用者の好みや状態に応じて、きざみやとろみを加えて提供している。敷地内の菜園では利用者も一緒に野菜などを栽培しており、食材として活用している。あずきばつなどのおやつ作りも一緒に楽しんでいる。	
41		○栄養摂取や水分確保の支援 食べる量や栄養バランス、水分量が一日を通じて確保できるよう、一人ひとりの状態や力、習慣に応じた支援をしている。	毎食、食事にて、食べやすい大きさにカットし、水分が取れるよう、提供している。また、利用者様のご家族様より、利用者様が好きな飲み物を届けていただき、提供している。		

令和 7 年度

2 自己評価および外部評価結果

事業所名 : グループホームぬくもり (さくらユニット)

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
42		○口腔内の清潔保持 口の中の汚れや臭いが生じないよう、毎食後、一人ひとりの口腔状態や本人の力に応じた口腔ケアをしている。	毎食後口腔ケアの声かけ、実施を行っている。月1回、協力歯科医療機関の歯科衛生士が来設し歯科検診を行い、診ていただいている。		
43	(16)	○排泄の自立支援 排泄の失敗やおむつの使用を減らし、一人ひとりの力や排泄のパターン、習慣を活かして、トイレでの排泄や排泄の自立にむけた支援を行っている。	利用者様一人ひとりの排泄パターンを把握し、尊厳を守りながらトイレ誘導やおむつ交換などの介助を行っている。ご自身でできることを維持し、清潔を保てるよう支援している。	排泄チェック表を活用して適時の声掛けや誘導を行っており、全員がトイレでの排泄ができている。オムツ使用者はなく、リハビリパンツの利用者が15人、布パンツ使用で自立の方が3人いる。また、6人が夜間にポータブルトイレを使用している。適時の排泄ケアの効果もあり、自宅で失禁していた方が入居後はほとんどなくなったという方もいる。	
44		○便秘の予防と対応 便秘の原因や及ぼす影響を理解し、飲食物の工夫や運動への働きかけ等、個々に応じた予防に取り組んでいる。	水分摂取や食事内容に配慮するとともに、食事前の口腔体操やユニット内の散歩を促すことで、自然な排便に繋がるよう、便秘の予防と解消に努めている。		
45	(17)	○入浴を楽しむことができる支援 一人ひとりの希望やタイミングに合わせて入浴を楽しめるように、職員の都合で曜日や時間帯を決めてしまわずに、個々にそうした支援をしている。	利用者様の意向を尊重し、体調に合わせて入浴や清拭を行っている。「お風呂に入りたい」という気持ちを大切に、安全でリラックスできる時間になるよう支援している。	週2回の入浴を基本としている。日によって入浴を嫌がる方もいるが、時間や日を変えて対応している。季節を感じられるゆず湯や菖蒲湯を楽しんでおり、4月には「さくら湯」として、浴槽にはピンクの入浴剤を使用し、浴室内に桜花の飾り付けも行い、特に女性の利用者には喜ばれている。入浴中は職員と1対1になるため会話も弾み、思いなどが話されることもあり、その内容はスタッフで共有するようにしている。	

令和 7 年度

2 自己評価および外部評価結果

事業所名 : グループホームぬくもり (さくらユニット)

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
46		○安眠や休息の支援 一人ひとりの生活習慣やその時々状況に応じて、休息したり、安心して気持ちよく眠れるよう支援している。	エアコンを使い温度の調整をし、電気、温度を一人ひとりの好みに合わせ、季節や状況を考慮しながら良眠できるよう支援している。		
47		○服薬支援 一人ひとりが使用している薬の目的や副作用、用法や用量について理解しており、服薬の支援と症状の変化の確認に努めている。	利用者様一人ひとりの薬の目的や副作用を職員が把握し、利用者様の状態に応じて服薬介助を行っている。体調変化の観察と内服確認を徹底し、安全な服薬管理に努めている。		
48		○役割、楽しみごとの支援 張り合いや喜びのある日々を過ごせるように、一人ひとりの生活歴や力を活かした役割、嗜好品、楽しみごと、気分転換等の支援をしている。	利用者様の力を活かし、洗濯物たたみや食器拭きを役割としている。レクリエーションにて、地区の祭り見学や、手作りおやつを作り、気分転換をはかっている。		
49	(18)	○日常的な外出支援 一人ひとりのその日の希望にそって、戸外に出かけられるよう支援に努めている。 又、普段は行けないような場所でも、本人の希望を把握し、家族や地域の人々と協力しながら出かけられるように支援している。	天気の良い日には、施設の前を散歩に付きそい、レクリエーションで地区の祭りを見学と一緒にでかけ、利用者様の希望にそって支援している。また、病院受診の際は、可能な範囲でなじみの店や自宅に立ち寄っていただくよう声をかけている。	バスレクリエーションでは、お花見で久慈市方面まで出かけたり、道の駅に立ち寄って食事や買い物を楽しんでいる。地元の野田まつりにも出かけ、事前に確保していた場所で伝統の山車を見物して楽しんできた。また、事業所周辺を散歩して楽しんだり、中庭に出て外気浴をしたり、菜園で野菜づくりや草取りする方も多くいる。	
50		○お金の所持や使うことの支援 職員は、本人がお金を持つことの大切さを理解しており、一人ひとりの希望や力に応じて、お金を所持したり使えるように支援している。	地域の祭りや、地域の道の駅などにレクリエーションとして、職員と一緒に出かけ買い物を楽しみ、支援している。		

令和 7 年度

2 自己評価および外部評価結果

事業所名 : グループホームぬくもり (さくらユニット)

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
51		○電話や手紙の支援 家族や大切な人に本人自らが電話をしたり、手紙のやり取りができるように支援をしている。	希望する人がいれば連絡できるような体制作りは出来ている。また、年賀状は欠かさず出し、ご家族様からの贈り物があった時は、SNSを活用し写真を送っている。		
52	(19)	○居心地のよい共用空間づくり 共用の空間(玄関、廊下、居間、台所、食堂、浴室、トイレ等)が、利用者にとって不快や混乱をまねくような刺激(音、光、色、広さ、温度など)がないように配慮し、生活感や季節感を採り入れて、居心地よく過ごせるような工夫をしている。	共有スペースは清潔を心がけ、カーテンで調整するなど不快にならないように努めている。また季節ごとに利用者様と職員と一緒に制作した作品を飾るなど季節を感じられるように工夫している。	ホール内は集中エアコンで温度管理されており、年間を通じて過ごしやすく保たれている。壁面には家族に送付しているぬくもり新聞が掲示され、イベントで楽しんでいる様子がみられる。ホールでは、日中に風船バレーや玉入れ、脳トレなどを楽しんでいる。11月には、作品展示会として共用ホールで様々な飾り物などの作品が展示されている。	
53		○共用空間における一人ひとりの居場所づくり 共用空間の中で、独りになれたり、気の合った利用者同士で思い思いに過ごせるような居場所の工夫をしている。	利用者様の食事席は決まっているが、ソファーなど好きな場所に座ってテレビを観たり、気の合う方とのお喋りを楽しめるよう環境作りに努めている。		
54	(20)	○居心地よく過ごせる居室の配慮 居室あるいは泊まりの部屋は、本人や家族と相談しながら、使い慣れたものや好みのもをを活かして、本人が居心地よく過ごせるような工夫をしている。	生活歴や馴染みのある暮らしの情報を反映した居室環境になるように努めている。利用者様からの要望があればご家族様と相談しながら可能な限り対応している。	居室には、ベッドや洗面所、タンスが備え付けられており、室温はエアコンによって適温に保たれている。利用者はそれぞれ、衣装ケースや馴染みの家族写真、テレビなどを持ち込んでいる。壁などには、行事での写真やクリスマスの作品などが飾られており、居心地の良い空間となっている。	
55		○一人ひとりの力を活かした安全な環境づくり 建物内部は一人ひとりの「できること」「わかること」を活かして、安全かつできるだけ自立した生活が送れるように工夫している。	利用者様の状態を把握しながら、環境に問題が無いかが検証して生活していただくよう努めている。心身状態に変化があった場合はその時々で再検証するよう努めている。		